

会 議 錄 (案)

会議の名称	令和 6 年度 第 3 回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	令和 7 年 2 月 25 日 (火) (午前 <input checked="" type="radio"/> 午後) 1 時 00 分 開会 (午前 <input checked="" type="radio"/> 午後) 2 時 30 分 閉会
開催場所	茨木市役所本館 6 階 第 2 会議室
議 長	野口 義文 氏 (立命館大学 副学長)
出 席 者	赤松 正巳氏 (北おおさか信用金庫) 、大岩 賢悟氏 (市内事業者) 、大坪 さやか氏 (市内事業者) 、奥山 結衣氏 (市民委員) 、五寶 美奈子氏 (市民委員) 、辰巳 雪絵氏 (市内事業者) 、辻田 素子氏 (龍谷大学 経済学部) 、中野 拓二氏 (茨木商工会議所) 、野口 義文氏 (立命館大学 副学長) 、藤井 茂男氏 (市内事業者) (10人)
欠 席 者	伊津田 崇氏 (中小企業診断士) (1人)
事務局: 職員	足立副市長、下菌産業環境部長、河原商工労政課長、武部商工労政課長代理、長野商工労政課商工振興係長、生田商工労政課職員 (6人)
議題(案件)	(1)会議の公開について (2)令和 6 年度事業の報告について (3)第 4 期アクションプランの策定について (4)答申について
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・アクションプラン取組シート (資料 1) ・パブリックコメント及び対応について (資料 2-1) ・第 4 期茨木市産業振興アクションプラン (案) (資料 2-2)

議事の経過

1 開会

委員長：開会のあいさつ

委員出席状況（11人中10人出席により会議成立）

2 会議の公開について

委員長：市の指針に則り、会議は原則公開とする。

会議録は要約したものを公開する。発言者は個人名を記載する。

なお、今回の傍聴希望者はなし。

3 令和6年度事業の報告について

事務局：（資料1とともに説明、オープンカンパニー紹介動画の視聴）

＜質疑・意見等＞

委員長：オープンカンパニーの動画はどんどん使っていただきたいですね。どこの企業かがパッと分かるようにした方が良いのかなと思いました。そういうことも含めてご意見をいただければと思います。資料1については令和7年2月1日時点での数字ですので、減ることはありません。積み上げ方式なので、最後に3月末に数字を入れるということですね。またホームページにもアップされると考えています。

事務局：そうですね。3月末でそこまで数字が変わらかというと難しいと思いますが、創業のところは、第3四半期の数字を記載しておりますので、いい報告ができたらと思っております。

辻田委員：5-1-3の成果指標について、中小企業人材育成支援事業の利用件数が下がったのは、何か理由があるのでしょうか。

事務局：中小企業人材育成支援事業は、中小企業が研修機関で受講する研修の受講料の一部を補助する制度ですが、事後に申請される企業もあり、例年3月の申請も数件あるため、件数自体は、年度末までにもう少し増えると思います。加えて、市では、中小企業大学校と連携して、茨木市内で中小企業大学校の講座を開講するサテライトゼミを年2回実施しており、こちらも本事業の対象研修であり、受講いただいた茨木市内の企業であれば受講料の半額を補助しています。例年、サテライトゼミの参加企業から何件か申請があるのですが、今年度はサテライトゼミの申込が少なく実施に至りませんでした。その辺りが利用件数減少の理由かと考えられます。他にこれといった要因が見当たらず、制度の周知を強化していく必要を感じております。

辻田委員：追加してお尋ねします。サテライトゼミは、市と共同実施のセミナーですか。

事務局：市で公共施設を借り、そこで中小企業大学校にセミナーを実施していただくものです。

辻田委員：今年度は、開催できなかったということですね。

事務局：はい。申込みが少なかったため、2回とも実施できませんでした。

辻田委員：講座の申込者数が少なかったのは、テーマが企業側のニーズとうまくマッチできなかつた、開催時期が悪かったなど理由があるのでしょうか。

事務局：もちろん来ていただくことを目的として、テーマと時期を設定しましたが、結果的にうまくニーズを捉えられなかつたと思います。1回目が8月に女性リーダー研修、2回目が2月にDX関連のテーマだったのですが、女性リーダー研修についてはテーマが狭かつたと思います。来年度に向けて、中小企業大学校と話し合い、対策を講じたいと考えております。

辻田委員：サテライトゼミについては、来年度も続くのですか。

事務局：来年度も継続予定ですが、実施回数に関しては協議が必要だと思っております。

辻田委員：何回も流れてしまうと中小企業大学校のモチベーションが下がってしまう恐れもあるため、悪循環に入らなければいいと思いました。

委員長：中小企業人材育成支援事業は、中小企業大学校が実施する事業に基づく利用件数ですか。

事務局：中小企業大学校の講座だけではなく、国の講座など対象となっているものがあります。利用件数が減っているからというわけではないのですが、次年度は、対象となる講座が増えるように進めているところです。さらに副業人材の利用に関しても、この補助金の中に含めるということで、制度を大きく変更しております。

委員長：来年度は、事業の周知、対象者を鑑みたメニュー設定など、改善につながるよう考えていただく必要があると思います。辰巳委員の会社は、オープンカンパニーに参加されていましたが、動画が作られることによって、受け入れる側など、来ていただく

方に対して何か情宣効果があるのではないかと思うのですが、どうでしょうか。

辰巳委員：受け入れる側は、安全面も考慮しながらレベルアップしていかなければならぬと感じました。企業間交流に関しては、オープンカンパニーをきっかけにさせていただくことができました。

委員長：オープンカンパニーに参加された企業との交流ということですね。まさにイノベーションの創出と思います。

事務局：まさに過程が大事でして、まずは勉強会という形であったり、先進市の実例の視察に行ったり、茨木市の企業さん同士が一緒になって考える時間を共有することで、企業間の連携が生まれる効果があると考えています。

委員長：また、企業が様々なシーンで苦労しているところを動画で撮影したら、より見る者の心を打つのではないかと思います。

辻田委員：映像を見て素直に思った感想なのですが、参加者や受け入れた会社の方々のコメントが、なぜ入っていないのだろうと疑問に思いました。何か意図があったのでしょうか。

事務局：あえてコメントを入れなかつたという訳ではなく、作成中の報告書には、アンケートの結果等のコメントを埋めていきたいと考えております。報告書はどうしてもコメントが固くなってしまうので、うまく抜粋して一般にオープンできるように調整したいと思います。動画は初めて作ったこともあり、スタイリッシュにすることに重きを置きすぎたかもしれません。

委員長：辻田委員のご発言は、動画に辰巳さんが出てきて「こういう繋がりができて良かった」というようなコメントがあると、メリハリも効き、そういう促し方あっても良いのかなと思います。

中野委員：報告ということなので、例年通りにということもわかりますし、動画も最近は短いモノしか見ていただけないので、難しいところですよね。

赤松委員：私も摂津市オープンファクトリーの立ち上げに参加させていただいたのですが、仲間意識を高めるためにゲームをしたり、様々な方に応援いただいたりと私自身すご

く感銘を受けました。オープンカンパニーに参加された方のコメントを入れることによって、参加する企業が7社から10社とかに増えていくことも大事ですし、企業同士の横のつながりで仕事が増えたりすれば良いと思います。

4 第4期アクションプランの策定について

事務局：（資料2-1、2-2をもとに説明）

＜質疑・意見等＞

委員長：アクションプランの11ページの物価の高騰のところですが、人件費の上昇があり物価が高騰するという形になっていますが、14ページには物価の高騰と人件費の上昇は分けており、11ページも同じように記載するのが良いのではないかと思いました。あと、20ページから重点取組のところは色を変えて記載されています。こちらは19ページと同じように星印を入れた方が良いと思いました。

事務局：ご指摘のとおり修正します。

赤松委員：パーセント表記のところはグラフ等があった方が分かりやすいと思います。

事務局：ご指摘のとおり修正します。

大岩委員：19ページの基本方針と基本取組のところに矢印が入っていますが、大きい矢印1個だけだと、全体的に基本方針と基本取組の関連性が分かりにくいと思いました。基本方針の地域資源を活かした産業振興を図りますというのは、5-2-4の観光の振興のどこと関連性があるのか、ということがもう少し明確になれば良いかなと思いました。

委員長：ご指摘良くわかりました。基本方針の①から⑤を一つのカテゴリーにして、それが基本取組の5-2-2から5-2-4で実施しているという大枠になるのですが、大岩委員がおっしゃったのは、基本方針の①～⑤が基本取組のどれを指しているのか、ということがわかれれば関連性もわかりやすくなるということだと思います。

大岩委員：そうですね。例えば5-2-4の観光の振興のコンテンツ造成ですと、基本取組の⑤と関連しますなどですね。

委員長：確かにそこはもう少し工夫する必要がありますよね。19ページの矢印の下のところは余白があるので、上の基本方針との相関等を入れて工夫していきたいと思います。

事務局：そうですね。中には基本方針自体が一つと限らなく、複数に掛かることも考えられますので、この表現の仕方は難しいと思っておりました。もう少しわかりやすくなるように検討したいと思います。

委員長：是非お願いしたいと思います。藤井委員はいかがでしょうか。

藤井委員：そもそものお話になりますが、アクションプランは誰に向けたモノになるのでしょうか。

事務局：市民の方はもちろんですし、事業者の方や市、それぞれに向けた計画です。他分野の計画と比べると事業者向けに見えてしまうかもしれません、観光の部分や、その他の部分でも市民の方にもわかりやすく示す必要があると考えています。上位計画である総合計画も、市民・事業者・市それが関わって進めていくという位置づけもあり、特定の立場の人だけに向けた計画ではないと考えています。

藤井委員：ありがとうございます。ただ、こちらのアクションプランから総合的に抽象的だという印象を受けました。例えばコンテンツに魅力ある地域資源の発掘、特産品の創出と記載がありますが、具体的にどういったモノなのか、訪れた人が楽しめるコンテンツとはどういったモノなのか、近隣の市との連携とはどういったモノなのかがイメージしにくいと思いました。今回のダムパークいばきたは、公園に来られた方を茨木市内にどうやって流すかということは、すごく大事であると思います。ただ、実際に行き来できるのは自家用車かJRからのバスになります。私がダムパークにバスで来た場合、駅から電車に乗って帰ってしまいます。例えば神戸から京都に向かう観光ツアーにはダムパークいばきたが含まれるなど、観光プランではないですが、コミュニティバスを走らせてみるなど具体的なモノがあれば、我々事業者としても協力できることが明確になります。今の時点のモノでは少しあわかりにくいと思いました。

委員長：ありがとうございました。どの層というのは非常にストライクゾーンが広く、パブリックコメント募集の際には、市民から事業者まで全部網羅しているので、ターゲットが大きければ大きいほど、プランの内容は抽象化してきますので、それがご指摘のところだと思います。あと、こちらはプランということになるので、この後にご指摘の具体的な活動の内容を議論していく形となると思います。確かにこれだけでしたらご指摘の通りですが、具体的な行動に導くための道標みたいなモノというところもご理解いただけますと助かります。それでは大坪委員いかがでしょうか。

大坪委員：私はアクションプランに対しての意見は特になく、これで問題ないと思います。今後、具体的な取組みを考える際には、一緒に議論していきたいと思います。

委員長：具体的なところはいくつか記載があるので、楽しみにしていただければと思います。それでは、奥山委員お願いします。

奥山委員：このプランの細かいところはあまりわかってないのですが、目標にあるまちが賑わっていると感じる市民が多くなれば良いと思っています。まちが賑わうためには、茨木市に興味を持ってもらわないと、いくらイベントを実施しても、なかなか、茨木市に人が集まらないと考えています。また、現在開催中の勝負めしフェアのスタンプラリーに参加しているのですが、勝負めし目当てで参加したのではなく、フラっと店に行ったことが参加のきっかけになりました。身近なところに良いところがあるのが茨木市なので、再発見できる部分も多々あると思います。

委員長：フラッと日常的に楽しめるという感じですか。

奥山委員：買物に行ったついでに「ああ、こんな店もあるんだ」みたいな感じで店舗に入ったらスタンプラリーをやっていて、勝負めしを食べに行こうと思って店に行ったら、期間限定商品があったのでそちらを食べてみました。名前は知っていたけど、行ったことが無い店が結構あり「これを機に行ってみよう」という感じです。

委員長：これからは、広報だけではなく、口コミでも拡げていく工夫も考えていくべきと思います。4ページの活気にあふれるまちというのがずっと下の方にありますが、これを上の方に持つていった方が良いのではないかと思います。そういうことも考えた方が良いかもしれません。貴重なご意見ありがとうございました。

五寶委員：先ほど、藤井委員もお話しされていましたが、これは誰に向けたものになるのかな？と思いながら読んでいました。プランなのでというお話も確かにそうだなと思いました。一般の市民がアクションプランを目にする機会は、なかなかないと思うのですが、勝負めしのようなコンテンツがあれば調べる方は調べ、目にする人は目にするため、そのような接点がたくさんあれば良いと思いました。アクションプランについては、数字のところには、グラフなどが入ると良いと思います。これだけ時間を使って作っているプランなので、事業者以外の方も目に触れていただきたくて、このプランを見たときに、自分事として考えられるような接点があれば良いと思いました。先ほど、奥山さんがお話しされていて「なるほど」と思ったことが、イベント等の期間限定なモノは参加者側が見誤ることが無いようになって欲しいと思いました。例えば、このお店にはたくさん人が来たということがあっても、それはあくまでもイベント上のことになります。何が言いたいかというと、大きいイベントを打ち上げるのではなく、継続して色々イベント等があった方が接点も増えるのではないかと思います。

委員長：ありがとうございます。尖ったモノが目立っていくというよりは、心地よい勢いのあるモノが継続的に続くような、俗にいうサステナビリティといいますか、今おっしゃられたことは良く分かります。裾野が広い方がピークも伸びてきますので、そういうことを醸し出すような内容にしていく必要があるのと、“誰が”というところです。「このプランは市民の方にも見ていただくように考えたプラン」みたいな文言を計画に追記すると、特定の対象者だけではなくストライクゾーンが広くなると

思います。中野委員、何かご意見はありますか。

中野委員：いかようにも解釈できる表現をせざるを得ないところもありますよね。市民が見るにはもう一つ先の具体的なモノがあった方がわかりやすいと思います。ただ、計画は、あまり具体的なものを書き込むよりもある程度、抽象的な書き方の方が使いやすい、その気持ちもわかります。

おにくるもできて、ダムパークいばきたもいよいよオープンというところで、今ご当地グルメの掘り起こし等を実施しております。今は鶏すきをやっておりまして、発祥の地ではありませんが、昔から茨木市でも食べられている料理です。この間おにくるで試食会もしてきました。ある商店街の会長に聞いたのですが、仙台にもおにくると同じ伊藤豊雄さんの建物があり、観光客がたくさん来ております。昔は牛たんの店があまり無かったのに、新たに MAP を作って、一大牛たんの MAP が完成したと聞いております。茨木市の観光施策にも似たようなことを取り入れて、進められたら良いと思っております。

他には、高槻市のうどんギョーザやキャラクターの“はにたん”は、高槻市の公認なんですね。茨木市は公認って何かあるのかなと思ってしまいました。昨日はおにくるで NHK の撮影があり、“いばラッキーちゃん”が写真撮影会をしておりました。知名度的には、いばらき童子ではないかななど、色々思うところがありましたので、茨木市の公認制度ができるとありがたいと思っております。

委員長：高槻市の“はにたん”、うどんギョーザ、最近では“将棋のまち高槻”と高槻市は色々とやっています。いろいろなモノの中から、これが欲しいと思わせるのが公認制度かもしれませんね。

中野委員：茨木市は力があるという認識をして欲しいです。市の公認は大きいことです。

事務局：茨木市全体で考えた時に、公平性というところがどうしても必要になってくるので、なかなか特定のものを決めにくいという実情があります。ただ、公認制度を今後検討してもよいのではとも思っております。

中野委員：鶏すきも特定のお店ではなく、色々なお店で食べられる形でやろうと思っています。

委員長：新幹線の駅を降りて一番近いダムが安威川ダムです。茨木市は色々な資源があるので、プロモーションの仕方等で魅力的な内容に変わってくると考えます。

事務局：ダムパークいばきたのオープンにあわせて、北部地域では、ダムにちなんだメニューの募集をしております。ダムラーメンやダムケーキなどです。

委員長：推しは何かというところを色々ご検討いただければと思います。辰巳委員は、何かれていますか。

辰巳委員：プランから少し外れてしまいますが、この委員会に参加させていただき、製造業を通じて茨木市の活性化にどうしたら貢献できるのかなという事を考える1年になりました。どちらかというと食の方が盛り上がると思うのですが、モノづくりを茨木市でしている中、どのように茨木市と関わっていけば、貢献できるかというところを模索中で、やっぱりモノ作り体験を一つの事業として進めていくことかなと思いました。

委員長：辰巳委員のおっしゃったことは、大事な視点で、食はおじいちゃんもおばあちゃんも子どもも共通なのですが、モノ作りは共通項を括りづらいです。モノ作りを共通項で括るというのが体験というキーワードなのかもしれません。食の話題はどこに行っても話ができますが、モノ作りは興味ない人からすれば、関心が湧きません。体験を通じて共生価値を保てるようになれば良いと思います。そういう観点から、オープンカンパニーは、需要も高いです。

事務局：そうですね、先程参加者が25人から195人になったと報告がありましたが、まだまだ増やせると思っております。今は参加企業が7社ですが、今後10社は超えていくだろうと思っております。希望だけでは15社を超えて20社近くあると聞いております。そういう輪を拡げていけたらいいと思っております。

委員長：今後、オープンファクトリーの取組みを進めていく中で、オープンカンパニー＋アルファみたいな取組みができれば良いと思います。辻田委員、何かありますか。

辻田委員：色々とお話しを聞いていて、20～22ページのめざすべき姿というところを囲っており、最後の観光のところは少し踏み込んだ内容でわかりやすくなっていますが、20ページと21ページのめざすべき姿は高槻市でも吹田市でもどこでもこの文言は使えるなと思いました。茨木市らしさみたいのが含まれていないことが、具体的な内容が欲しいとなる要因なのかなと思いました。めざすべき姿のところにキーワードを取り組みのところに茨木らしさを入れれば、どこの都市のモノかはっきりするので良いのではと思いました。読みにくいという話は、引き付けるものが少ないと改めて改善の話で挙がっていたグラフや写真などを入れて改善していくのがいいと思います。細かいところでは、成果指標のところの商業者による地域支援や地域活性化に向けた取組件数がこの先5年で倍に近い目標数字になってますが、目標に対する説明を入れた方が良いと思います。初めて見た人は目標に疑問を感じるのではと思いません。

委員長：ありがとうございました。最初のところは稼働領域を大きくとると内容が丸くなってしまうので、看板を書き換えたらいどこの都市でも通用するという内容となってしまします。これまでずっと議論してきた中の悩みの一つが茨木らしさです。その茨木らしさを少し入れるとアクションプランがより良いモノ、より身近なモノになっていきますので、少し考えた方が良いと思いました。

事務局：今回のアクションプランからは、基本方針の②に共創という言葉を加えております。おにくるという施設も共創の場であり、茨木らしさでいうと、市民や企業や茨木市が一緒になって新たなモノを作り出していくことが、茨木らしさではないかと思い共創というキーワードを入れております。めざすべき姿の中にそういうフレーズを入れるとすれば、茨木らしさも出るのかなと思います。

辻田委員：何かそういう雰囲気がでれば良いと思いました。

委員長：共創というのは良いと思います。もう少し茨木らしさを入れられれば良いと思いました。

事務局：アクションプランのめざすべき姿は、総合計画で掲げていることをそのまま引用しているため、範囲が広く少し抽象的になっております。今ご指摘をいただいた内容は、説明のところに入れることができれば良いと考えております。

委員長：辻田委員がおっしゃった成果指標ですが、2029年度は結構大きい目標もあり、これに関してはこういう根拠があるのでこの目標数字ですとは、なかなか言いづらいですが、手の届かない目標ではありませんという雰囲気を少し入れてもいいのかなと思います。

皆さまのご意見をお聞きしましたので、今いただいた意見は次につなげ、事務局と私の方で責任をもって対応をしていきたいと思っております。ありがとうございました。

5 答申について

茨木市産業振興アクションプラン推進委員会に係る答申については、出席委員によって承認されました。

6 閉会

事務局：それでは、以上をもちまして委員会を閉会させていただきます。
ありがとうございました。